

Part.
03

PROJECT IMPLEMENTATION

実施報告

- P.017 Upgrade：
女性研究者の上位職への積極登用に向けた取組
- P.017 - 女性教員特別昇任（ポストアップ）制度
 - P.019 - 教員評価・選考過程でのライフイベントの考慮
 - P.020 - キャリア継続支援システム
- P.025 Empowerment：
女性研究者の研究力向上のための取組
- P.025 - 研究マネジメント力の涵養
 - P.060 - ナレッジマネジメント力の向上
- P.094 Support：
ダイバーシティ研究環境整備のための取組
- P.094 - 研究支援：人材バンク・研究支援員制度の充実
 - P.100 - ファミリーサポート
 - P.119 - カウンセリング：女性サポート相談室から教職員サポート相談室（仮）へ
- P.126 その他の取組
- P.126 - 一般事業主行動計画等
 - P.129 - 女性のための施設整備状況の調査
 - P.130 - SHINE プラグラム
 - P.133 - ネットワークの形成
 - P.136 - 地域との連携
 - P.142 - イベント
 - P.154 - 広報
- P.159 活動一覧（平成27年度～令和2年度）

Upgrade : 女性研究者の上位職への積極登用に向けた取組

Chapter.01
01 女性教員特別昇任（ポストアップ）制度

本学の人事制度では、上位職ポストが空席となった際に初めてその職階の公募が行われる。従って、優秀な人材であっても上位職ポストが空席とならない限り登用は望めない。そこで、優秀な女性教員を、その一代に限り学内措置で早期に上位職へ登用する制度として平成27年度にポストアップ制度を構築した。対象となる教員は、概ね5年以内に、所属部局において上位職への昇任が可能と評価された本学の准教授、講師、及び助教の女性教員（特別契約職員は除く）としている。ポストアップ教員の選考は、所属部局からの推薦を受け、ダイバーシティ推進本部長（企画・評価・総務担当理事）を委員長とするポストアップ審査委員会で審査を行い、適任者を決定する。各年度2人以上をポストアップ（初年度は1人）し、令和2年度までに計12人の昇任を目標としていたが、目標を上回る15人のポストアップを行い、令和2年度には長く女性教授が不在であった理系学部において、女性教授2人が誕生する成果に繋がった。

●対象者

概ね5年以内に、所属部局において上位職への昇任が可能と評価された本学の准教授、講師、及び助教の女性教員（特別契約職員は除く）

●選考方法

- Step1 : 部局から適任者を推薦
- Step2 : ポストアップ審査委員会において審査、候補者を選考
- Step3 : 全学の人事戦略・評価委員会において審議
- Step4 : 候補者の昇任を部局教授会で承認



●昇任実績

年度	目標	実績	
		准教授 → 教授	助教 → 准教授
平成27年度	1人	1人	—
平成28年度	2人	2人	1人
平成29年度	3人	1人	2人
平成30年度	2人	2人	1人
令和元年度	2人	—	1人
令和2年度	2人	2人	2人
合計	12人	8人	7人
		15人	

●昇任詳細（所属は昇任決定時情報）

実施年度	氏名	所属	研究分野・学会等	ポストアップ職名
平成27年度	赤木 里香子	大学院教育学研究科	美術科教育	准教授 → 教授
平成28年度	大守 伊織	大学院教育学研究科	発達支援系	准教授 → 教授
	前田 恵	大学院環境生命科学研究科（農）	糖鎖免疫学	助教 → 准教授
	兵藤 好美	大学院保健学研究科	看護学	准教授 → 教授
平成29年度	片山 美香	大学院教育学研究科	発達臨床心理学	准教授 → 教授
	門田 有希	大学院環境生命科学研究科（農）	ゲノム遺伝解析学	助教 → 准教授
	本田 恭子	大学院環境生命科学研究科（環）	農村計画学	助教 → 准教授
平成30年度	上村 弘子	大学院教育学研究科	応用健康科学	准教授 → 教授
	齋藤 光代	大学院環境生命科学研究科（環）	環境動態解析	助教 → 准教授
	大年 順子	全学教育・学生支援機構	英語教育学	准教授 → 教授
令和元年度	宮崎 祐子	大学院環境生命科学研究科（農）	植物生態学	助教 → 准教授
令和2年度	井上 麻夕里	大学院自然科学研究科（理）	地球化学・古環境学	准教授 → 教授
	YUCEL Zeynep	大学院自然科学研究科（工）	知能ソフトウェア基礎学	助教 → 准教授
	高橋 明子	大学院自然科学研究科（工）	電力制御ネットワーク	助教 → 准教授
	三木 直子	大学院環境生命科学研究科（農）	樹木生理生態学	准教授 → 教授

Chapter.01 02

教員評価・選考過程でのライフイベントの考慮

本学では毎年業績評価のための教員活動評価を実施している。出産、育児、介護等のライフイベントは必然的に時間的な制約をもたらす。女性教員はこのライフイベントの主体となることが多く、評価時には配慮が必要である。

平成28年度のWTT 教員にかかる教員活動評価において、評価対象期間内にライフイベント（出産、育児、介護等）により研究中断（休職）期間があった被評価者は申告を行うこととし、評価の際考慮する取組を開始すると共に、平成28年10月24日に「ライフイベントを考慮した教員評価システムの構築について（要望書）」を学長宛に提出した。その結果、平成29年4月1日には、国立大学法人岡山大学教員活動評価実施要項に「被評価者にかかる出産、育児、介護等（以下「ライフイベント等」という。）の状況についても配慮する」、また、「部局長は、ライフイベント等により評価対象期間に勤務しない期間を含む教員について、評価対象外とすることができる」という文言が明記された。さらに、教員活動評価にあたっての留意事項として、ライフイベント等の事情を抱えながらも卓越した活動を行った教員に相応の評価を行うことが明記された。このことにより、各部局で定められた教員活動評価調書の中に、ライフイベントによる研究中断（休職）期間があった被評価者は、その状況について記載できる項目が追加され、ライフイベントをふまえた総合的な評価が可能になった。

●教職員活動評価調書

Table with multiple columns: 評価対象者氏名, 所属, 評価年度, 評価対象期間, 評価項目, 評価結果, 評価理由, 備考. Includes a red box highlighting a specific row with a note about life events.

ライフイベント(出産、育児、介護等)による休職、その他申告したい事項がある場合に記入してください。

◆ 復職支援助成金制度

研究者の継続的なキャリア形成支援の一環として、出産、育児、介護、看病等による研究中断から復帰した研究者（男性研究者を含む）を対象として、リスタートアップ研究費を助成する制度を平成27年度に構築し、支援を開始した。

平成27年度 復職支援助成金制度 構築
令和元年度 定期募集に加え、随時募集開始

● 対象者

出産・育児・介護及び看病等により、概ね3ヶ月以上やむを得ず研究活動を中断した者（原則として、申請時より直近4年以内に中断開始）で、以下のいずれかに該当する者（男性研究者を含む）。なお、すでに本助成金の交付を受けた同一のライフイベントでの申請はできないものとする。

- ① 本学に在籍中の研究者
- ② 現在、離職中の研究者で、交付決定後は、雇用の有無にかかわらず、本学を主たる場として研究に従事することが予定されている者

● 支援内容

- ① 1件あたり 25～50万円（年度の予算状況による）
- ② 予算の執行は、各年度内とし、予算の繰り越しは認めない。
- ③ 執行可能なものは、消耗品費、旅費、印刷製本費、役務費等。

● 交付実績

年度	申請件数	交付件数
平成27年度	8件	8件
平成28年度	10件	5件
平成29年度	8件	7件
平成30年度	3件	3件
令和元年度	7件	7件
令和2年度	3件	3件
合計	39件	33件

●利用者詳細（所属・職名は交付決定時情報）

交付年度	所属	職名	主な利用内容	休職理由	交付金額
平成27年度	岡山大学病院	医員	消耗品費／国内旅費／ 雑役務費（日本語訳）	産前産後休暇・ 育児休業	500,000円
	大学院医歯薬学 総合研究科（歯）	助教	消耗品費	産前産後休暇・ 育児休業	500,000円
	大学院医歯薬学 総合研究科（歯）	助教	消耗品費	産前産後休暇・ 育児休業	500,000円
	大学院自然科学 研究科（理）	助教	消耗品費／雑役務費 （施設利用料）	産前産後休暇・ 育児休業	500,000円
	大学院自然科学 研究科（理）	助教	消耗品費／国内旅費	産前産後休暇・ 育児休業	500,000円
	大学院環境生命科学 研究科（環）	助教	消耗品費／国内旅費／ 雑役務費（テープ起こし）	産前産後休暇・ 育児休業	500,000円
	大学院環境生命科学 研究科（農）	助教	消耗品費／雑役務費 （RNA解析）	育児休業	500,000円
	資源植物科学研究所	助教	消耗品費	産前産後休暇・ 育児休業	500,000円
平成28年度	保健学研究科	助教	消耗品費	産前産後休暇・ 育児休業	300,000円
	惑星物質研究所	職員	消耗品費／国内旅費	育児休業	300,000円
	全学教育・学生支援 機構	助教	消耗品費／国内旅費	産前産後休暇・ 育児休業	300,000円
	大学院医歯薬学 総合研究科（医）	講師	消耗品費	産前産後休暇・ 育児休業	300,000円
	大学院医歯薬学 総合研究科（歯）	助教	消耗品費	育児休業	300,000円
平成29年度	大学院教育学研究科	非常勤 研究員	消耗品費／国内旅費／ 雑役務費（翻訳／参加費）	産前産後休暇・ 育児休業	300,000円
	大学院社会文化科学 研究科	准教授	人件費／消耗品費／ 国内旅費	産前産後休暇・ 育児休業	300,000円
	大学院保健学研究科	助教	消耗品費	産前産後休暇・ 育児休業	300,000円
	大学院自然科学研究科	助教	消耗品費	産前産後休暇・ 育児休業	300,000円
	グローバル人材育成院	准教授	消耗品費／国内旅費／外国 旅費／雑役務費（参加費）	産前産後休暇・ 育児休業	220,000円

交付年度	所属	職名	主な利用内容	休職理由	交付金額
平成29年度	大学院社会文化科学研究科	助教	消耗品費／国内旅費	産前産後休暇・育児休業	300,000円
	グローバル・パートナーズ	講師	消耗品費／国内旅費／雑役務費(参加費)	産前産後休暇・育児休業	300,000円
平成30年度	大学院医歯薬学総合研究科(薬)	助教	消耗品費	産前産後休暇・育児休業	250,000円
	大学院医歯薬学総合研究科(医)	客員研究員	消耗品費	出産に伴う退職	250,000円
	自然生命科学研究支援センター	助教	消耗品費	産前産後休暇・育児休業	250,000円
令和元年度	大学院自然科学研究科(理)	助教(特任)	消耗品費	産前産後休暇・育児休業	300,000円
	大学院医歯薬学総合研究科(医)	助教	消耗品費	産前産後休暇・育児休業	300,000円
	大学院保健学研究科	助教	消耗品費	産前産後休暇・育児休業	230,000円
	大学院環境生命科学研究科(環)	助教	消耗品費／国内旅費／会議費／印刷製本費	産前産後休暇・育児休業	300,000円
	グローバル人材育成院	准教授	消耗品費	産前産後休暇	300,000円
	大学院自然科学研究科(理)	准教授	消耗品費／国内旅費／雑役務費(参加費)	産前産後休暇・育児休業	300,000円
	大学院医歯薬学総合研究科(薬)	助教	消耗品費	産前産後休暇・育児休業	300,000円
令和2年度	大学院保健学研究科	助教	消耗品費	産前産後休暇・育児休業	300,000円
	大学院環境生命科学研究科(環)	助教	消耗品費	産前産後休暇・育児休業	300,000円
	全学教育・学生支援機構基幹教育センター	講師	消耗品費	産前産後休暇・育児休業	300,000円

●利用者の声

利用者	医員 / 岡山大学病院
利用者の声	<p>乳房再建の臨床研究に携わっておりますが、研究においては乳房手術用患者主観的評価尺度 BREAST-Q日本語版の開発の一環として、現在新しい乳房温存術モジュール、再建術への予測モジュール、広背筋皮弁用アンケートの日本語版開発に取り組んでいます。今回の助成金によって、その第一歩である2版の日本語訳を作成するステップが完了しました。今後は、これらの統合・逆翻訳・患者の協力のもとパイロットテストを実施して完成させる予定です。臨床の現場ではマイクロサージェリーを用いた乳房再建を頻繁に行っているため、双眼ルーペによって手術の精度が向上し疲労度が改善されました。研究費の助成によって、研究が推進できたことが何よりの効果でしたが、間接的に(仕事をする以上は何か成果を出さないとけないという)心理的負担が軽減されました。また、参加したい学会や研究会があっても出費を考えて躊躇するというのも多かったのですが、今回の助成金でこういう費用が賄えた点も非常に有り難かったです。</p>
研究実績	<p>共同研究=2件 学会発表=4件 外部資金獲得=科学研究費助成事業(若手研究(B))代表者1件</p>
利用者	助教 / 大学院医歯薬学総合研究科(歯)
利用者の声	<p>一次繊毛は歯牙組織構成細胞の一つである象牙芽細胞を含む、体を構成する殆どの細胞に存在し、細胞外環境を感知するセンサーとして機能することが知られている。しかし、象牙芽細胞における一次繊毛の機能は、ほとんど明らかになっていない。これを解明するため、象牙芽細胞前駆細胞株KN-3細胞において、一次繊毛形成遺伝子であるIntraflagellar transport protein (Ift) 88のノックダウンを行い、wound healing assayを行った。その結果、細胞遊走速度は減少した。また、この際のアクチンダイナミクスを確認したところ、コントロールと比較し、アクチンフィラメントの遊走方向への伸展が認められなかった。また、woundから72時間後には、コントロール細胞ではRac1の活性が認められなかったのに対し、Ift88をノックダウンした細胞ではその活性が認められた。これらのことより、IFT88は、Rac1の活性を調節し、アクチンダイナミクスの制御を行うことで、規則的な細胞遊走に働いている可能性が示唆された。育児休業前は、象牙芽細胞における一次繊毛の機能解明を行っていた。一次繊毛には未だ不明なことも多く、復帰後も、この研究を継続したいと考えていたが、そのための研究費がなかった。しかし、復職支援助成金の交付により、自身の希望通り、象牙芽細胞における一次繊毛の機能の探索を継続することが出来た。さらに、私の場合、復職支援助成金の交付開始時期に育児休業からの復帰の時期が重なったため、復帰直後から復帰支援助成金が交付された。このため、科学研究費助成事業の交付開始までの研究費のない期間でも、育児休業前と同様に研究を推進することが出来た。</p>
研究実績	<p>筆頭論文=2報 学会発表=4件 外部資金獲得=科学研究費助成事業(基盤研究(C))代表者2件</p>

利用者	助教 / 大学院自然科学研究科 (理)
利用者の声	<p>本研究助成では、申請者が新たに作出した遺伝子改変ラットの表現型解析として、輪まわし行動解析装置を用いた生体リズムの測定を行った。申請者はすでに2台の輪まわし装置を所有していたが、本助成金を用いて輪まわし装置を2台追加で購入した。行動実験では解析個体数が多く求められ、また1匹の解析に最低4週間を要したが、輪まわし装置が追加購入できたことで、解析の速度が倍になり、研究を大きく推進することができた。ライフイベントにより研究の進捗が遅れていたが、本助成金の活用により、研究を加速することができた。本助成金により精神的に安定することができた。</p>
研究実績	<p>筆頭論文=1報 学会発表=10件 外部資金獲得=科学研究費助成事業(若手研究(B))代表者1件等他2件</p>
利用者	助教 / 大学院医歯薬学総合研究科 (医)
利用者の声	<p>本助成金を利用したことにより、血液中HMGB1レベルの変化を調べるための実験追考に必要な試薬の購入が可能となり、血液中HMGB1レベルの変化を解析することで、脳出血病態における炎症関連因子の発現との時間的相関性について評価することができた。また、in vitro の実験でHMGB1はLPS刺激後に内皮細胞核から細胞外へ移行することを確認した。HMGB1のトランスロケーションと細胞外放出は、抗HMGB1抗体によって阻害される。この結果はin vivoでマウス脳出血における抗HMGB1抗体のメカニズムを解明する有効な手掛かりとなるものと期待される。助成金を活用したことにより、今後も着実に成果を挙げることができると考えられる。ライフイベントにより研究費と研究時間の確保が難しいが、本助成金により精神的に安定することができた。本助成金のおかげで、論文1編を公表し、それによって大きな自信となった。</p>
研究実績	<p>筆頭論文=6件 学会発表=6件 外部資金獲得=科学研究費助成事業(若手研究)代表者1件</p>
利用者	助教 / 大学院環境生命科学研究科 (環)
利用者の声	<p>本助成金を利用したことにより、中国における水銀排出源の同定と排出量を試算することに用いるARD (activity rate data, it refers to the amount of a product containing mercury that is consumed or a mercury-containing material fed into the process) データ取得のために必要な図書や消耗品の購入が可能となり、水銀排出量の試算に関する知見を得ることができた。また、研究手法に関する情報収集のための書籍等の購入ができ、LCA (ライフサイクルアセスメント) についての考察をより深めることができた。さらに、現段階での成果を学会発表等により、同じ研究分野での研究者と意見交換を通じて、有意義なコメントとアドバイスを頂くことができた。研究成果を論文の形で公表し、行政の意思決定者や本研究のステークホルダーへの助言になることができた。助成金を活用したことにより、今後、水銀排出マテリアルフローの構築をより正確かつ具体化、着実に成果を挙げることができると考えられる。ライフイベントにより研究費の確保、研究時間の確保が難しいが、本助成金により精神的に安定することができた。そして、子育てと仕事の両立による精神的なストレスを解消できた。</p>
研究実績	<p>筆頭論文=4報 学会発表=5件</p>

復職支援助成金についてのWebページはこちら

<https://www.okayama-u-diversity.jp/grant-support-activities/reinstatement/>

